



THE SUN AND THE MOON

R-18
FOR ADULT ONLY





ちん、問題無い
ちゃんと真面目に
練習を重ねてたみたいね

昨日で介介



—そこまで

本当ですか!?



ええ、妹たちに比べたら
通常の3倍以上真面目で
怖いくらい

この人も
大変なんだね...

それに
初心者にしては
呑み込みが早いし...

もしかしたら
案外才能があるのかも
しれないわね、貴方





ええええ!!

キキキキ

ぐるぐるぐるぐる

聞いて

わわわわ
私、その
まだ心の
準備が

なななな
なななッ!



あなたは大丈夫——

心配ない、

確かに：
あなたの奏でる音を聞いていると、
心の中に様々な迷いが
あるのが分かる
それが未熟と言っている
理由かもしれない：

でもそれ以上に、
大きく純粋な想いのこもった音が
はつきりと伝わってくるの

それは
花火の様に力強くて：

とても素敵——

私達にとって大切な事は
演奏の技術云々よりも
音への想い

いくら演奏が
上手であつても、
想いが込められてなければ
心に響く事は無い

それは他の
生きとし生けるモノ達も
同じ事——

強い想いが
自己の研鑽を積み、
それが他者へ影響を及ぼす——

己を作るのは
技術よりも
精神ココロ

それが
崩れていけば
出来る事も
出来なくなってしまう

あなたは技術を
補つて余るくらいの
とても強い
意思を秘めている

だから——
あなたは大丈夫



良かった

どうやら
落ちていた様ね

…さつきより静かだけど、
もしかして鬱の音色
強過ぎたかしら

いいえ 大丈夫です！
すっかり落ち着き
ましたからっ!!

ただ……

ルナサさんが
あんな事をするのが
なんだか……

そう……
だったかしら……

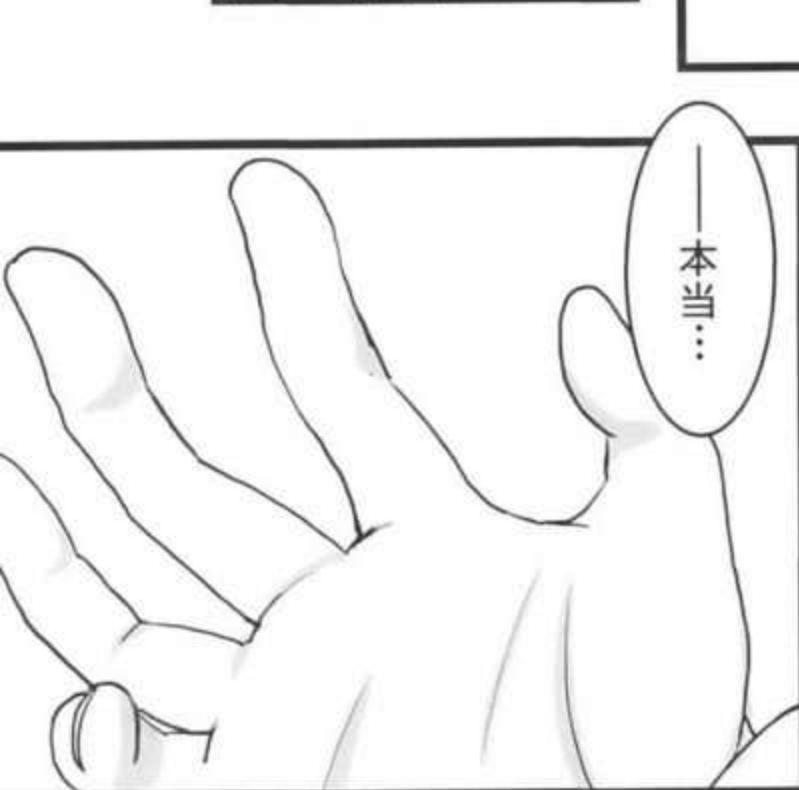
とても珍しかったので
それで……

鬱の音を聞かせて
妹達の馬鹿騒ぎを
やめさせるのは
よくやるけどね

なんだか
新しい妹が出来た
みたいだったから

あなたが
窮屈そうに
してたから
放っておけなくて……

……ただ……





ふう…
びっくりした…



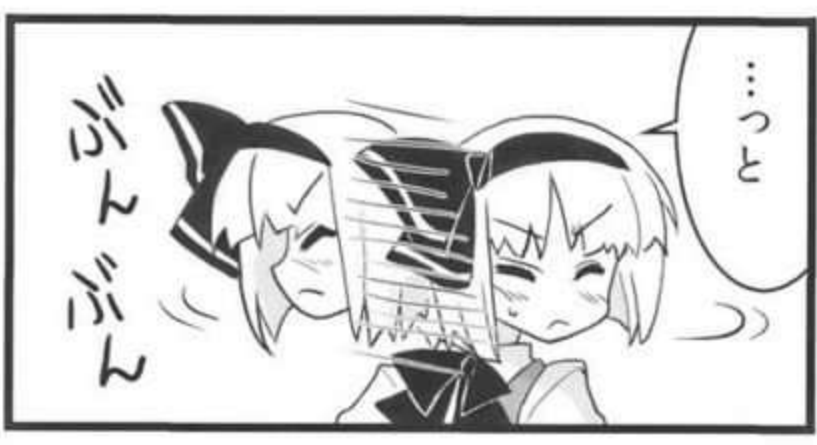
とん

まさかルナサさんが
あんな事するなんて…



妹みたいって
言ってたけど…

まるで想い人を
相手にする様な…



…と

びん
びん



ははは…
何変な事
考えてるんだろ

早くお茶を淹れて
戻らないと…

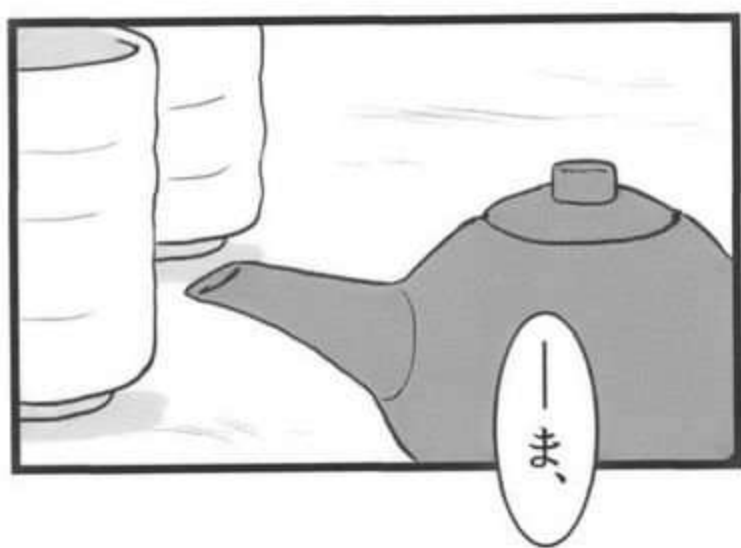


!



あ…

空。





茶葉を
変えたの？

あ、はい



おいしい…



一日十膳
西行寺 幽々子

いつもお出し
している物が
切れていたの…
お口に合うかと…

問題無いわ

それに…



あのっ…



やっぱりさっきのは
私の気のせいかな

あ…



不変は安心感を生むけど
同時に進化を阻む
感心は出来ない

…



ただ、散々利用
するだけして
モノにしたらさっさと
用済みにすると
思ってたけど



そんな大層な
事じゃないわ
断る理由も無い

宴会の時の余興が
増えるのも
楽しみではあるし



毎回白玉楼^{ここ}に来て
パイオリンを教えて頂き
ありがとうございます

そちらも
色々とお忙しい
でしょうに



まあここに来ると
あなたの御主人様が
妹達の相手をしてくれるし、

その間に教える事に
専念出来るから
私としても助かってるわ



ここに来る
一番の理由は…



白玉楼は
託児所扱い
なのだろうか…

でも



私がここを、

気に入っているから…
かしらね



ここでは
風がこすれる音でさえ
不思議な音に聞こえる



更には
そこに住まう者達の
生活音：
ましてや楽器を演奏
するなんて、

それだけでも
滅多に無い体験よ



だから私は——
ここに
通ってるのかしらね…

——どうしてだろう



この子
妖夢の前だと
いつもより口数が
多めになる——



冥界に存在する音は
既に死んだ音——
人妖の跋扈する幻想郷では
聞くことはできない

私達騒霊にとっては
来る度に珍しい音が
発見出来る良い場所——



最初はそんなに
気にしていなかった――

ライブの様に
普通に依頼物の中の一つ…
くらいの感覚で



それに…

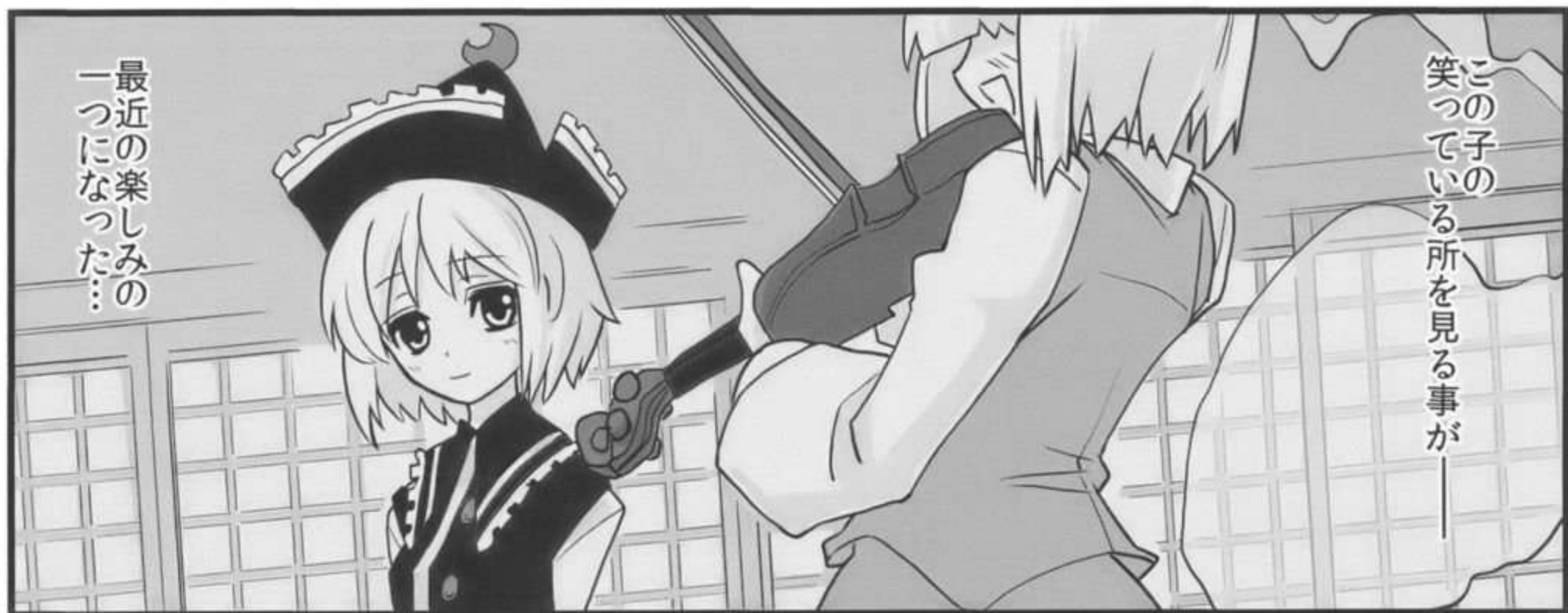


楽器を教える奥深さに…

妖夢の
上達ぶりど



でも回を重ねる毎に…



この子の
笑っている所を見る事が――

最近の楽しみの
一つになった…



出来るなら、
このままここに
通い続けられれば
良いのだけど――…

ルナサさん？

ルナサさん？

は

え...と、何？

あ...いや、急に
お話をやめられたので...

もしかしてどこか
お体の具合でも？

い、いえ
ただちよつと
ポーっとしてて...

大丈夫、
何でも無いから...

？

いけない...
調子が
狂ってしまった...

ここは一つ話を
変えないと

それにしても
短期間でここまで
上達するなんて、
このお嬢様も
驚くかわね

そうなんです！
実は最近その事で幽々子様から
お褒めを頂く事が有りました！

そ...



前回の宴会の際
ルナサさん方の前座で、
教えて頂いた
バイオリンを使って
短い曲を
演奏したんですが…

それを幽々子様が
大変喜んで
くださいます



私には見せない、
私には決して出せない
あの笑顔を見た時……



その時一緒にいた
時折感じる虚無感……

それは……



いやー、あんなに
褒められたのは凄く
久し振りです！



それは
同じ笑顔と言っても……



どうすることも出来ない、
大きな壁

なんだか、とても……
歯痒い……



天と地ほどに違う
ものだった



大きな差に
感じた

それが……
私とあの人との



なげなげ

— 変だ、
私は一体
何を考えている？



ルナサさん!?





し、心配しないで
ただちよつと
体がだるい
だけだから…

何言ってるんですか
どう見ても
病人のそれですよ



で、でも—



それに目の前で
倒れた方を放っておく
なんてできません!



あっ…!

とせつ

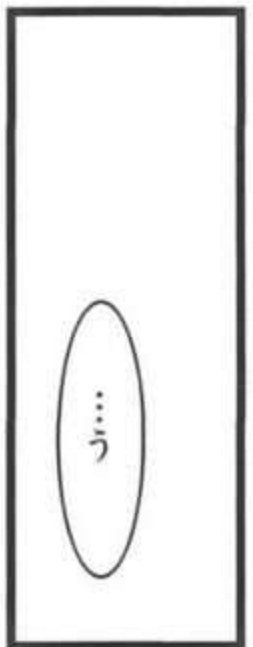


しまった…

だっ…



うん…



…

大丈夫ですかっ!?
すみません
私ったら...

お、お怪我は
ございませんかっ!?

女の子の声を聞いてると...

そして...

ルサさん!!
ルサさん!!

何だかもやもやとした
不思議な気分になる...

この顔を
見ていると...

良かった...
気付かれたんですね

何かあったら
どうしようかと...

待っていて下さい
今お布団を
お持ち
しますの...

— 必要ない...

はい?

もう...



んあ…

んむあ…つ…
んう…!



…うん…



んッ…







ん





い…医療に詳しい
霊があるので
それに診てもらえば…



ふ、普段とは様子が
違ってましたし…
その影響で…こんな…



やはり病気…
…なんででしょうか？

そうじゃないの…
そうじゃ…

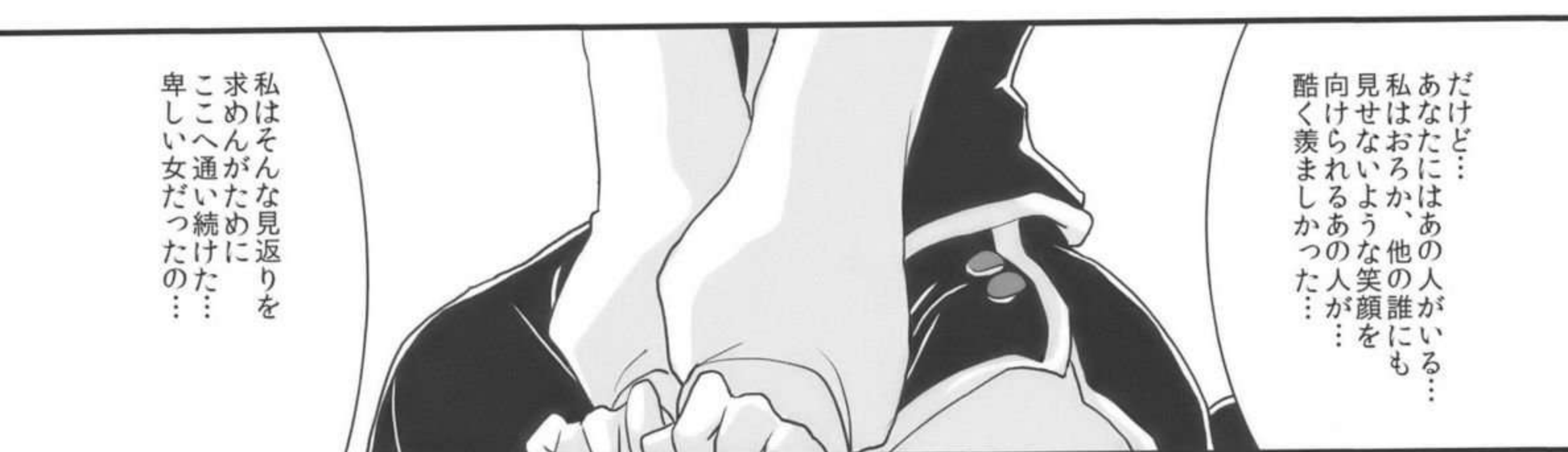


ごめんなさい…



…最初は教える事が
新鮮だと思ってたから
ここに通ってたと思
ってた…

でも…あなたと
一緒に居られる事が
一番の理由だと
いう事に…気付いた



だけど…
あなたにはあの人がある…
私はおろか、他の誰にも
見せないような笑顔を
向けられるあの人…
酷く羨ましかった…

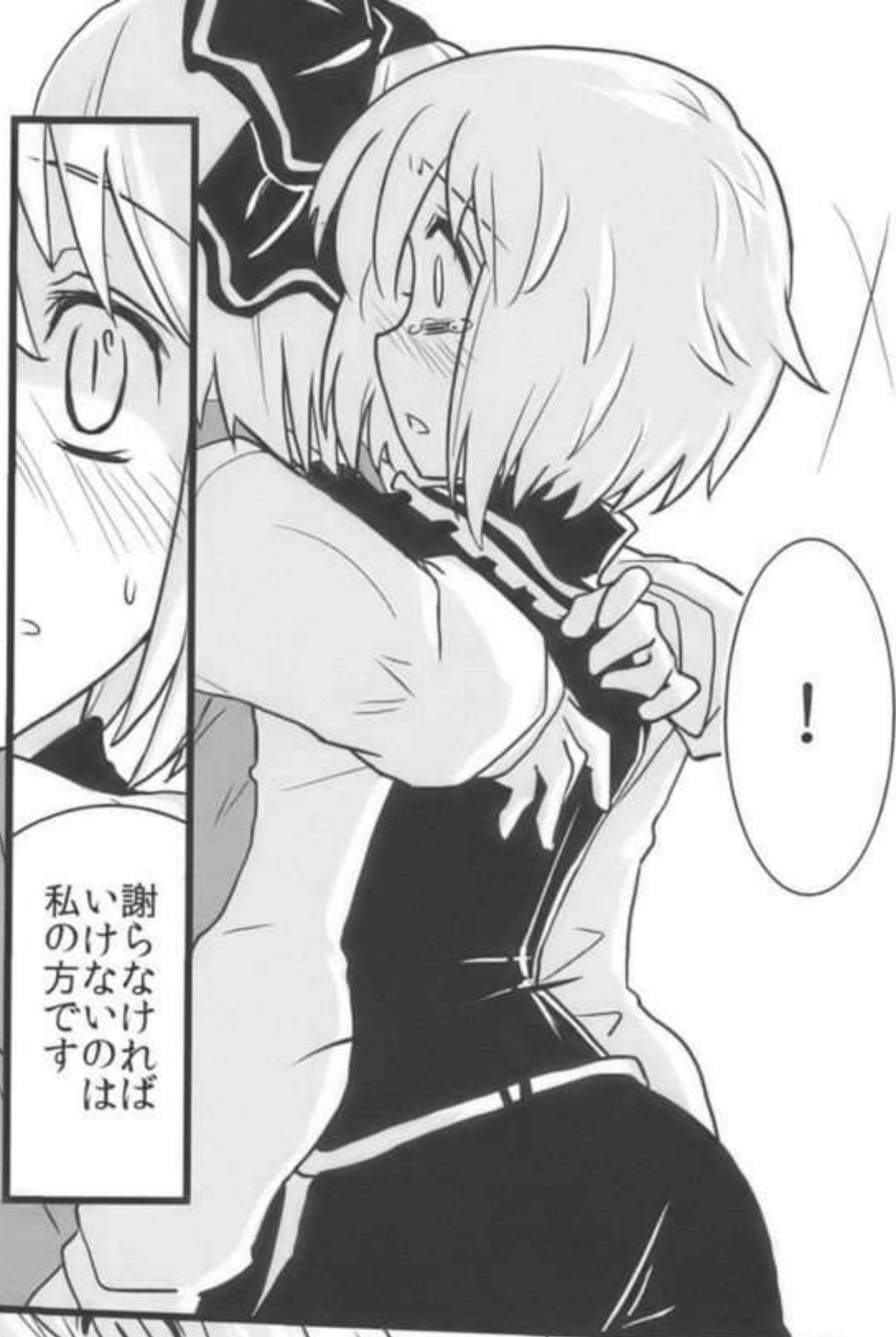
私はそんな見返りを
求めんがために…
ここへ通い続けた…
卑しい女だったの…



さつき頭の中が
真っ白になった時…
何も考えられなくなって…
気付いたらあなたが…



わ…
私…私…っ！





…ん…

ん…

んむっ…んん…

む…んふ…

んッ…！む…

あむ…

んう…

んんっ…！



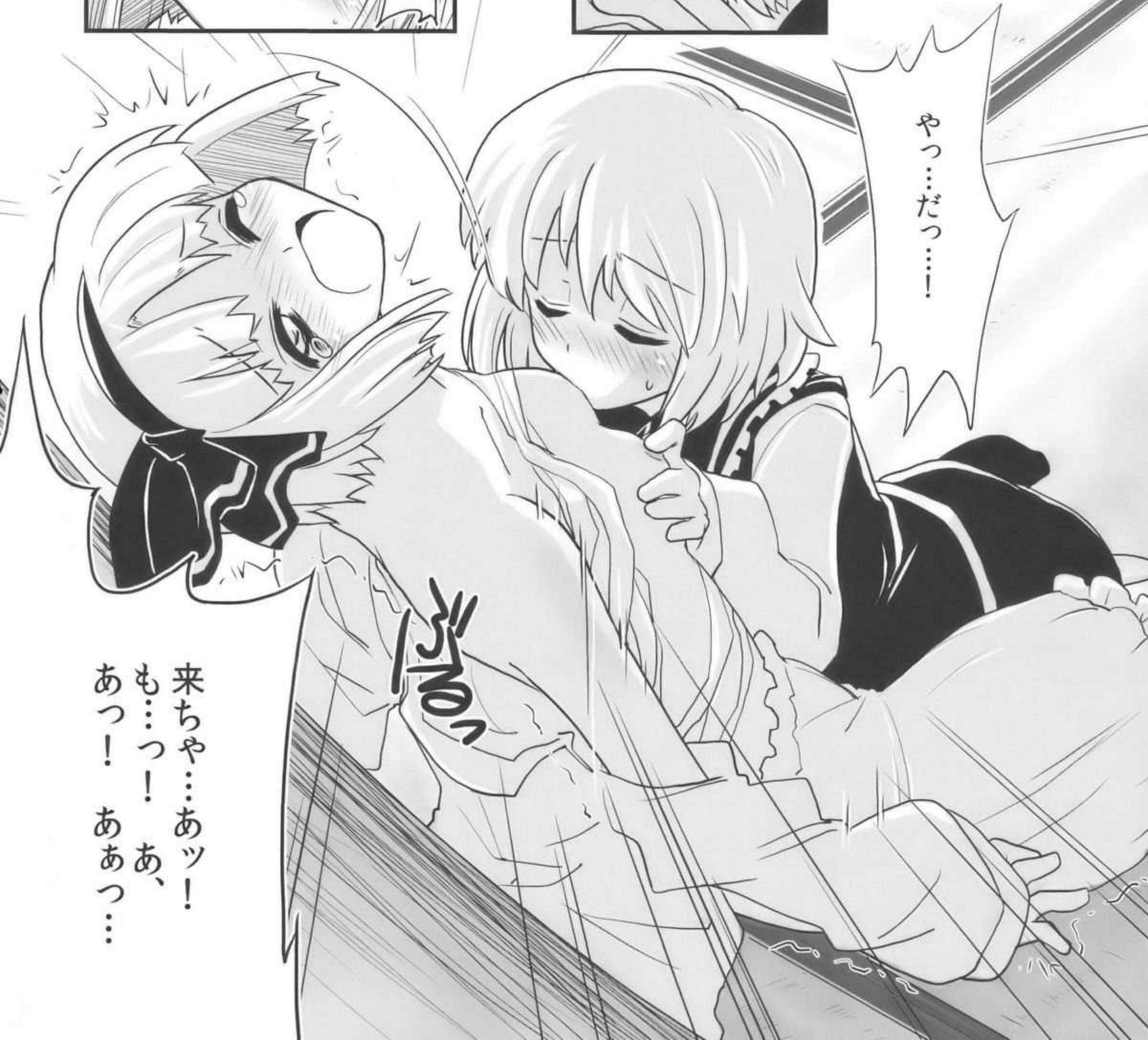


...はっ...はっ...はっ...

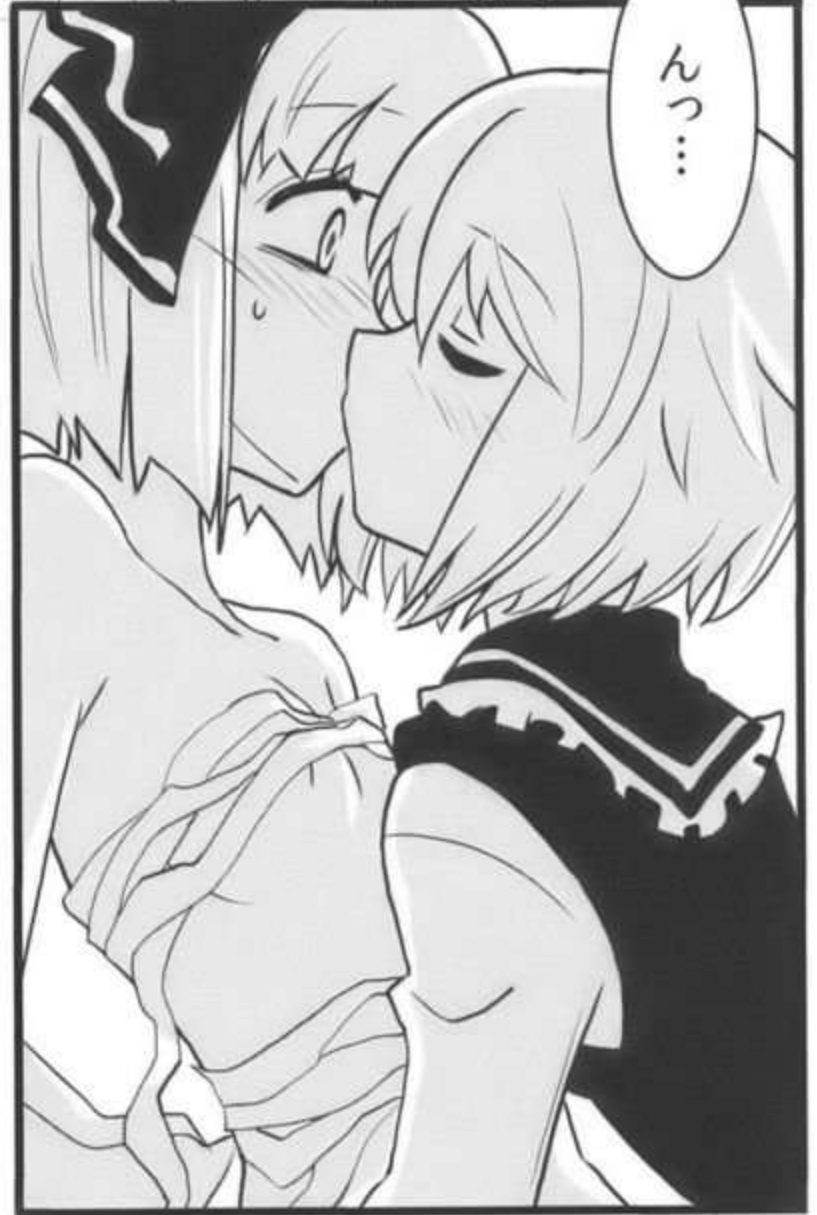
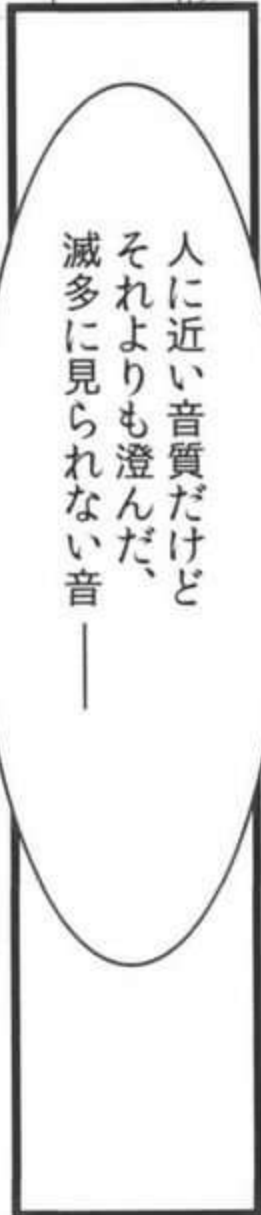




はあ
あっ……



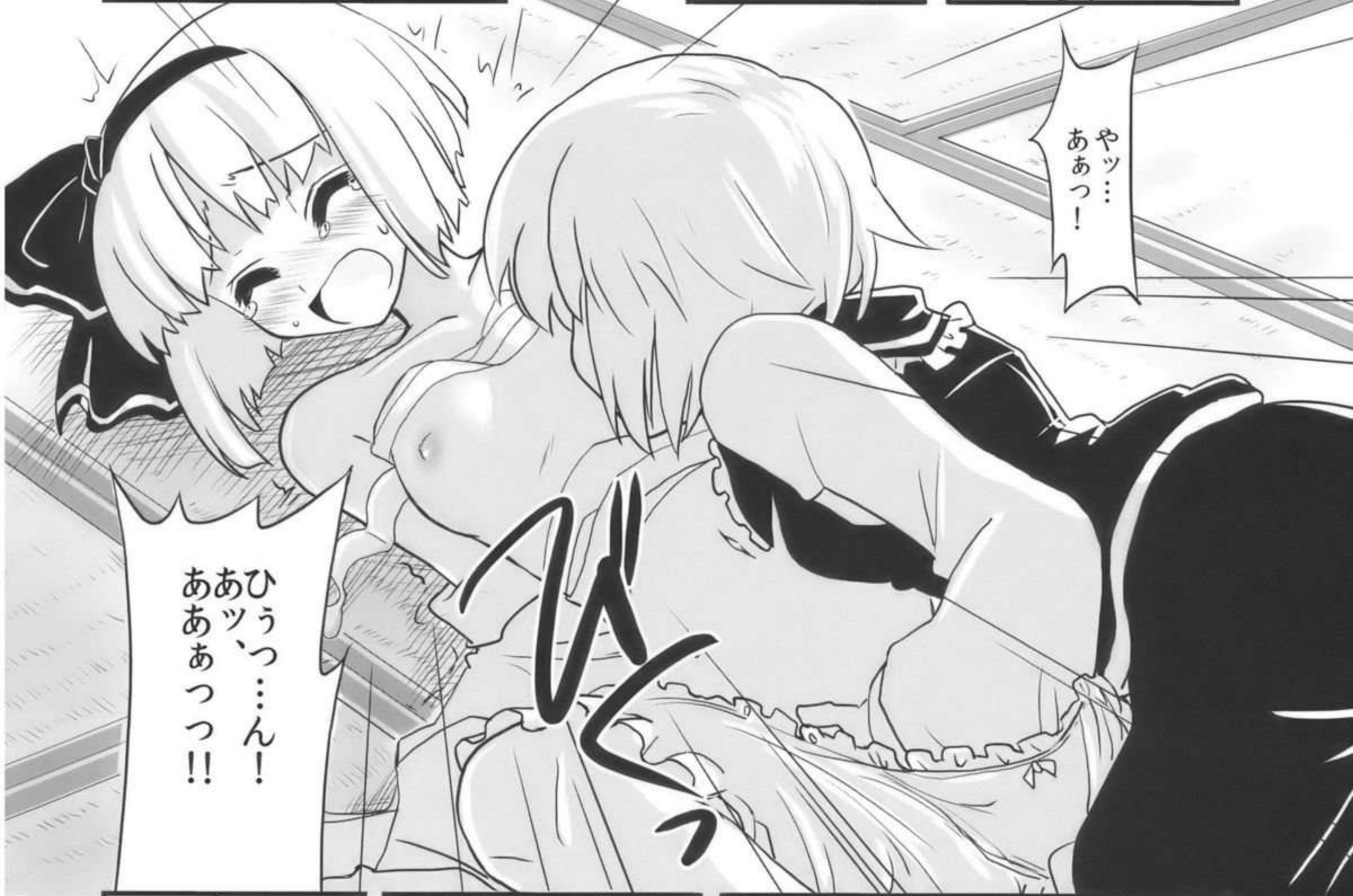
来ちや……あッ！
も……っ！あ、
あっ！ ああっ……



もっと聴かせて…



そっ…
そこは…っ!



やッ…
あぁっ!

あひうっ…ん!
あぁっ!!



んっ!



あっ!
やぁ…っ!

そっ…なあっ！



あ……だっ…





.....んっ.....!



しまった...
少し
やり過ぎたか...



妖.....





妖夢…？



よ…



なっ…!?

わっ



ですから

さっきまで
やられた分…



ふふふっ 隙ありですよ、
ルナサさん

ずるいです、
貴方ばかり



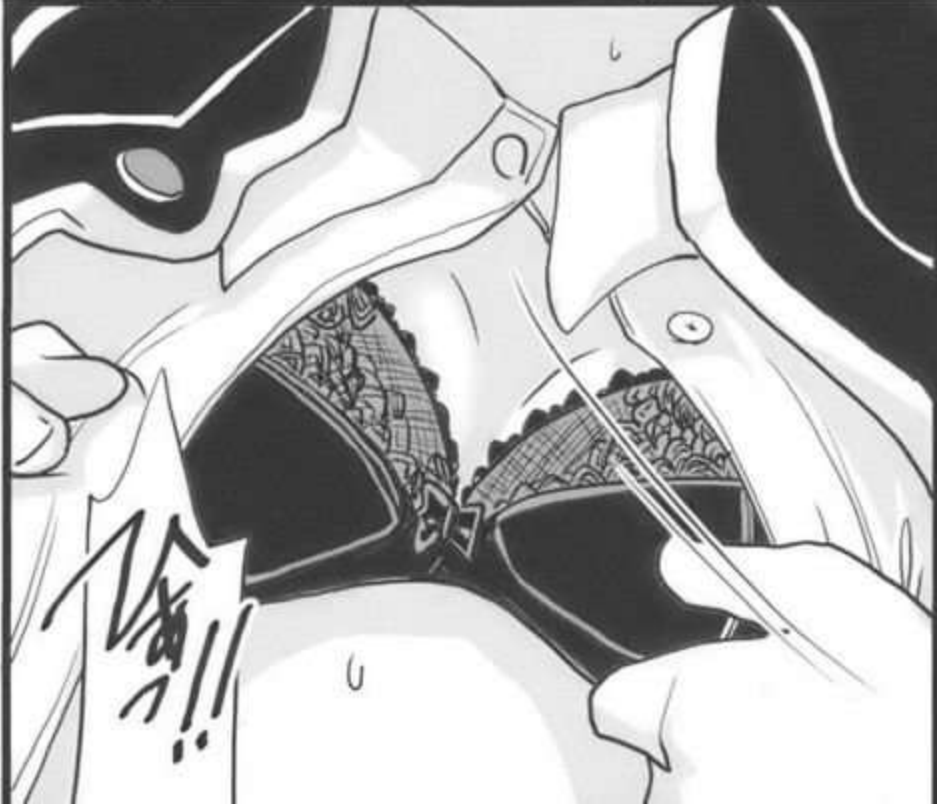
やあつ！
そ…っ！
そこは…ッ！！



お返しです



ん



だ…駄目ッ！
そんな……や……っ！！







あ...あ...
うん...

は...

んっ...!

はんっ...
むう...ん
んふ...



んむ...っ
は...
むんっ...
ん...んう...っ



お、お願いします、
今度は...
二人...一緒に...

ん...





あ...

んはっ!!...
んはっ!!

んああっ!!

んはっ!!

んはっ!!...
んはっ!!

んはっ!!

んはっ!!





ズン

バキッ

ズン



あ...



はあ



はあ...



ま…、また近い内にお越しになる事は…

無理

ライブの予定が
沢山入ってる
音合わせや準備も
必要だから暇を取れる
余裕もあまり無い



あの…
ルナサさん？

何？



そ、
そうですか…

ただ…
私達楽団は、
要請があれば
何処であれど
馳せ参じる身



それでも
良ければ



は…



あなたが望むのなら…

私は
いつでも白玉楼へ
来るつもり…



は…



あらあら、
こんな明るい内から
お熱いこと

ド
ド
ド



しっかし
珍しいもの
見れたよねー

うふふ、
まさか妖夢に
あんな一面が
あるとはね♪



まつたく…
可愛い妹を放っておいて
何をしてるかと思つたら…

こーんな
ハッピーな事を
やってたなんてー

リリカ！
メルランまで！！



あの…幽々子様
つかぬことを
お聞きしますが
いつ頃から…

えーつとね…



確か
赤い彗星がなんやら
とか言つてた
あたりからかしら

最初からか！！



これは――



妖夢、もしかして戸棚にあつたお茶を淹れちゃった？



えっ、あはいいひよつとしていお出したのではいけない物だったのですか？



そういうわけじゃ無いんだけどね

実はこのお茶、竹林の薬剤師の特別な代物なのところから入手した

これを飲むと気分が昂揚してきて、己の欲求に素直な精神状態になるらしいんだけど……



ま、簡単に言うと
媚薬
みたいなものね

その様子だと効果はどうやら本当みたいね



姉さんだったらー
そういう事だったら相談してくれてもいいのにー

全然気が付かなくてごめんねー

かあ……





…知りたいの？



と、ところで幽々子様、何故そのようなものをお求めに…？

あら



もー、そんなに邪険にすることないじゃん

ええっ!?

そうそう、折角のお誘いを無碍にしたら失礼でしょー？

メ、メルランやめて！



良いわよ、そりやもうじつくりねっぶりどっぶりど…

い、いえ結構です！幽々子様の手を煩わせるわけには!!



じゃあ早速これから行こうかしら？



準備はいいみたいねー

なんかもう臨戦態勢だし!!

どっから調達したんですかそんなの!!



答えは聞いてないけど♪



うふふ、今日は最初っから最後までクライマックスで行かせてもらおうわ

覚悟はいいかしら？

END

巻末3コマ



■あしがき■

ども、前回のあしがきで『こんにちは』を『こんちには』と盛大な誤植をかました藤伊です。如何お過ごしでしょうか。今回は十分気を付けてはいますが、なにぶん怪しいもんで…。もし見かけても暖かくスルーしていただけると幸いです(笑)

そんなんで今回はルナサ×妖夢本となりました。この二人が東方で好きなキャラトップをなもんで、ずっとこの組み合わせの本を探してたんですが、(自分の探し方が甘いせいか)なかなか見つからず…。なので、それなら『無ければ自分で作れば良い』という結論に至り、結果こうなりました。初めて成年向けで描かせてもらったんですが、いや、難しいですね。難儀でした。それでも最後まで描ききれたのでほっとしています。次もあるか…は分かりませんが、また機会があればなんか描ければ良いな、と思っています。ここまでお付き合いいただき、ありがとうございました。

さて、次回は受かっていたら例大祭ですかね。多分プリバで何か出すかと思いますが、詳細はまた後ほどにでも。それではまたお会いできれば～。もっとルナサ妖夢は評価されるべき！

□奥付□

THE SUN AND THE MOON

発行日: 2009/12/30

発行者: 藤伊 (藤色茶房)

URL: <http://fujiirosabou.jugem.jp/>

PixivID: id=121421

e-mail: fujiiro2008@gmail.com

Special Thanks

Hさん、Kさん、Yさん、Kさん、Hさん

原作: 東方Project (上海アリス幻楽団)

印刷: サンライズパブリケーション

◆無断転載・18歳未満の方の閲覧を禁じます◆

**The moon is too far so that the sun may notice,
and the sun is dazzled for the moon.**

TOUHOU Project FANBOOK Vol.3

Presented by FUJIRO SABOU